

小学校第五学年 国語 「新聞記事の見出しを考えよう」

○ 正答例

一 【意見A】

(ぱっと見たときに、) 記事の内容の大体が分かる (という工夫)。

【意見B】

(読む人の) 興味や関心を (ひと目で) 引きつける (という工夫)。

二

見出しは「感謝のカレー」にしたらどうでしょう。何をしたのかはカレーのひと言で大体分かるし、何に感謝しているのか興味を引きつけることができます。 (七十五字)

○ この問題で身につけてほしい力

○ 友だちが書いたもののよさをとらえて、考える力。

○ 具体的な例を出して、友だちに助言する力。

○ 考え方

一 【意見A】、【意見B】とも、学級新聞の記事の「見出しをどうするか」という内容です。

両方とも、「見出しを書くための工夫」を根拠に説明しています。

【意見A】で根拠になっている文は、次の通りです。

「新聞の見出しは、ぱっと見たときに、記事の内容の大体がわからなくてはいけません。」

【意見B】で根拠になっている文は、次の通りです。

「新聞の見出しは、読む人の興味や関心をひと目で引きつけるよなものであるべきです。」

これらをもとに、考えていけばいいでしょう。

二 二つの【条件】を解説します。

まず、異なる見出しをつけること、という条件です。【意見A】【意見B】それぞれのよさを受けて考えるとよいでしょう。

次に両方の友だちに伝わるように、という条件です。いくら自分の考えを説明しても、根拠のある理由を示さなければ、聞く人が納得できない場合があります。聞く人にも分かりやすく理由を伝えることが大切です。また、理由に加え、「どこをどう直すのか」ということを例として示す(「代案を示す」といいます)ことで、意見をよりはっきりと伝えることができます。

このようにして自分の考えを伝えるときに、大切なことがあります。

○ 相手に投げかけるように伝えること。

○ 相手の表現したいことや、考えのよさを生かして考えること。

「どうですか。」「どうでしょう。」と投げかけるように伝えることで、相手は出された意見を受け止めやすくなります。

また、相手の表現したいことをもとに意見を出すことで、相手は出された意見について考えやすくなります。

このように、相手の立場を考えて出された意見は、「助言」として受け止められるようになっていきます。

以上のことから、正答例は次のような組み立てになっています。

○ 自分の考え (結論)

○ 考えた理由 (【意見A】を根拠に)

○ 考えた理由 (【意見B】を根拠に)

○ 自分の考え (結論)

見出しは「感謝のカレー」にしたらどうでしょう。何をしたのか

考えた理由(【意見A】を根拠に)はカレーのひと言で大体分かるし、何に感謝しているのか興味を

引きつけることができます。と思います。